

私が新宿食支援研究会（新食研）に関わることができたのは、今から2年前のことです。当時、同じ職場の方から、摂食・嚥下の勉強ができる！しかも、新宿で活動する他職種と連携をとれる！と勧められ、参加したことがきっかけでした。新食研に参加するようになり、驚いたことが2つあります。

1つは、参加者が多職種であることです。医師、介護職員、福祉用具専門相談員、歯科衛生士や栄養士、言語聴覚士などなど、これほど多くの職種が参加する勉強会は他に知りません。また、勉強会の講師が医師や歯科医師以外の職種が多く、食支援を包括的に学べる場となっているのです。

もう1つは、参加者の熱意とつながりの濃さです。特に、介護職員や福祉用具専門相談員の食支援への意識の高さと知識量の多さ、そして、既に現場で食支援の連携が数多くなされていることに驚きました。逆に、自分自身の食支援への知識不足に焦りました（すぐにamazonで食支援の書籍を取り寄せたことは内緒！）。また、参加者同士が「腕と腹」を見せあい、つながりを強化して新宿地域のケア力を高めていく、地域連携の実際の姿をみることができました。

参加から2年が経ちますが、新食研はますます職種を広げ、活動内容や活動の場を



広がっています。この先の展開もますます楽しみです！

（理学療法士 伊藤 匠）

繋がりをつくることは？

第2回 NPO 法人介護者サポート

ネットワークセンター・アラジンの活動

【先月の続き】介護者の会でのことです。その日の会では、介護している者同士がその大変さに共感し、労い、奥さまの気持ちに寄り添っていました。その時、私は、介護者をサポートする側の目線で介護者の背景に気を配ってあげたいと思っていました。

介護者が「大変」という場合、介護の負担と心理的負担があり、どちらの意味で大変なのかを考える必要があります。従来の「介護が大変への対応」= サービス導入、方法論、指導という考え方では、介護者の一つの側面しか認識しておらず、この誤った認識による言葉がけでは、かえって介護者を傷つけてしまう場合があるのです。

私はこの時、食事を口から食べるとは？と投げかけました。ある介護者から、禁食から一口食べた祖母とその家族の喜びの話になり、話題が歯や食事、介護について盛り上がりました。在宅での歯科衛生士の介入方法等、情報も共有しました。介護者の会に参加して、参加者の気持ちが変わっていくケースを何人も見てきました。前出の奥さまは、帰る時にはすっきりして帰られました。

誰もが介護家族になる時代。明日の自分を支えるつもりで介護家族を応援したいと思っています。介護者から学ばせていただくことが多いのです。

（歯科衛生士 河相 ありみ）

地域食支援の実践

～新食研の Strategy～

新食研代表 五島 朋幸

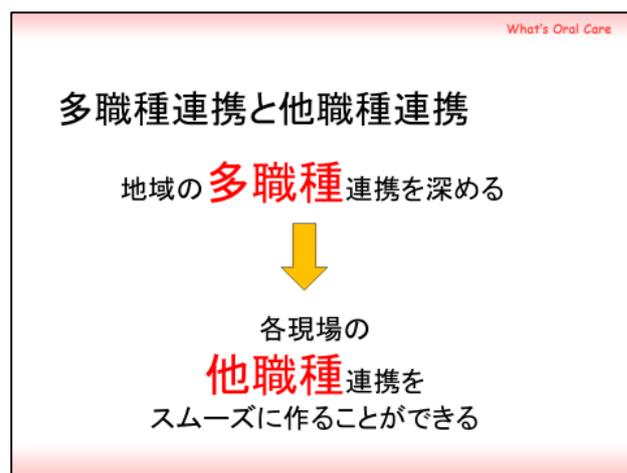
2009年に結成した新宿食支援研究会(新食研)はまもなく7年になります。この間、新食研は発展を続けており、全国的に注目を浴びる存在にもなりました。なぜ、私たちが注目を浴びているのか。一言で言うと、単なる専門職の集いではなく、地域づくりを主眼とした活動を行っているからです。

驚くことに多くの地域に食の支援団体や連絡会があります。そのほとんどは、地域住民に知られることなく、ニーズの上がってこない専門職集団です。そもそも新食研を立ち上げるとき、その失敗の原因を分析し、地域ベースの活動を考えるところから始めました。そして完成したのが「地域で食や栄養に何らかの異常がある人を見つける人(M)」「それを適切な人につなぐ人(T)」「結果を出す人(K)」、これらの人を専門職、住民を含めて無限に作りだすことを新食研の活動根幹にしました。

その具体的な方法として様々なワーキンググループづくりを行い、多様な活動を繰り広げることにしました。現在、20ものワーキンググループに多職種の方が参加してそれぞれの目標に向かって日々進化しています。

しかし、地域が、社会が「食」の重要性に気づかなければこのような活動が浸透していきません。そこで「広める(H)」ことも活動の根幹に据えることとしました。この「MTK&H」が新食研による地域活動の原則です。

さて、最近「タシヨクシュ」連携という言葉が多く使われます。他職種連携と多職種連携。世間的には同義語として使われていますが、個人的には違う定義があると考えています。他職種連携はある一つの現場で他の職種と連携しながら結果を出すこと。一方、多職種連携は地域の中で多くの職種が連携しあっており、多様な結果を生み出すこと。多職種連携が地域でしっかりできていれば各現場の他職種連携はスムーズに形成されます。そう考えると、新食研は多職種連携そのものなのです。



新食研の strategy (戦略) は以下の3つです。

- 1 新食研メンバー自身が各職種のプロとしてそれぞれ食支援力を向上させる
- 2 新食研の各WGで地域食支援力を向上させる
- 3 「食べられる人」だけではなく、「食べられる街」を作る

新食研はもう7年です。しかし、まだ7年です。今後とも発展し続けます。